

## もくじ

7月・8月・9月例会報告と鳥のパネル展	.....	1
パネル展 鳥別・月別一覧表	.....	4
〃 鳥たちとの出逢い	.....	5
「重信川の自然をはぐくむ会」に参加しました	.....	6
和歌	.....	6
ルシーダでの最後の遠出	.....	7
蝶のくる庭 (ジャコウアゲハ7月~9月)	.....	9
健康診断	.....	10
高知で学んだこと	.....	11
被災松のバイオリン	.....	15
雑感	.....	16
愛媛新聞掲載文	.....	22
編集後記 お知らせ	.....	23



## 7月・8月・9月例会報告と鳥のパネル展

7/16 (火) 9:00～ 中央公民館 パネル展準備 6名出席

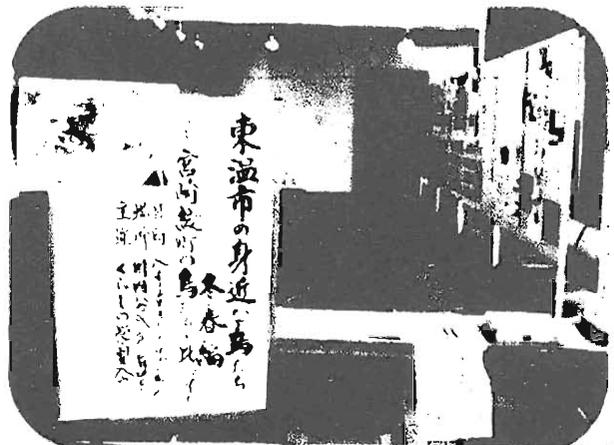
- ・綾町の鳥の写真は、1～5月の期間に宮崎県綾支部のOさんが撮影したものを東温市の鳥は東温市在住で愛媛野鳥の会の奥川健一氏の写真を使わせて貰う。
  - ・開催にあたっての挨拶文
  - ・宮崎綾町の説明文・綾ユネスコエコパークの説明文・鳥たちとの出逢いの文
  - ・展示会宣伝用のチラシ5種類 ～Oさん作成～
- ☆ 以上の材料が揃い、ほぼ展示が出来る状態にまでに出来あがった鳥のパネル10枚(東温市5枚・綾町5枚)とその他のパーツ(9枚)の位置を決める。
- ☆ パネル展宣伝用のチラシをお願いする場所選びと、持参する担当者を決める。  
(中央公民館、川内公民館、中央図書館、川内図書館、市役所、重信郵便局、川内郵便局、ゆるぎ郵便局、横河原郵便局、いわがら児童館、さくら児童館など)

7/18 (木) 19:00～ 中央公民館、

- ☆ 16日に仕上げたパネルやチラシの鳥の名前・全体配置を奥川さんに確認してもらう。

### 鳥のパネル展

東温市の身近な鳥たち 冬・春編  
～宮崎綾町の鳥たちと比べて～  
8/5(月)～11(日)  
川内公民館



来観者の感想ノートより (川内公民館)

- ・かわいかったです。(幼稚園生)
- ・見たことのない鳥がたくさんいて、とても癒されました。
- ・知らない鳥がたくさんいて分りました。(川上小学校6年生 4名)
- ・見たことある鳥達の名前が分りちょっと幸せでした。
- ・かわいかった。シメが好き。(6年生)
- ・ヒヨドリとアオゲラが好き。(2年生)
- ・見たことのないないとりがみれてよかったです。(4年生)
- ・お写真をとられた方のあたたかいまなざしを感じることができ、ホットな夏ですがほっとしています。
- ・綾町に引越して行かれたOさんからいつも身近な鳥の写真をPCに送って貰っています。東温市も負けていないですね。
- ・鳥の写真なかなか楽しいですね。東温市は1年を通じて多くの種類がいます。冬はキレンジャクやヒレンジャクも見かけることがあります。
- ・鳥 とてもかわいい！！

～～夏休み期間中でもあり図書館に来た小学生や親子連れも

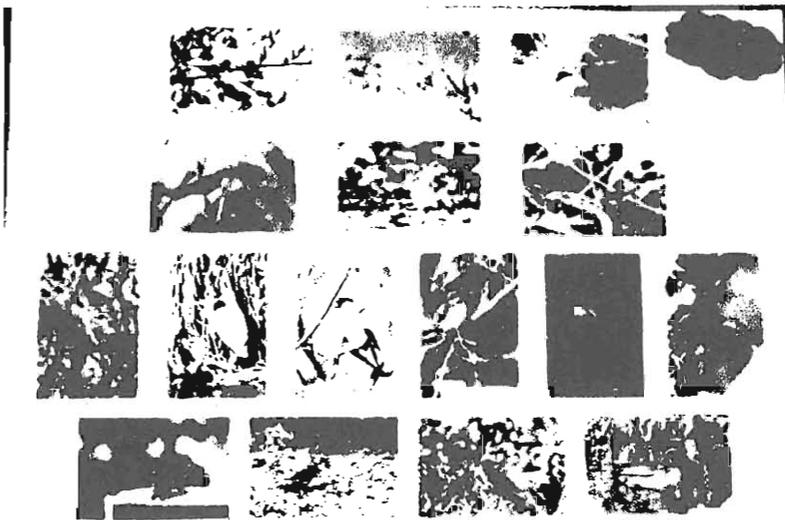
多数観て下さったようでした。～～

鳥のパネル展

9/8(日)～14(土)

東温市の2月の鳥

中央公民館(展示の一部)



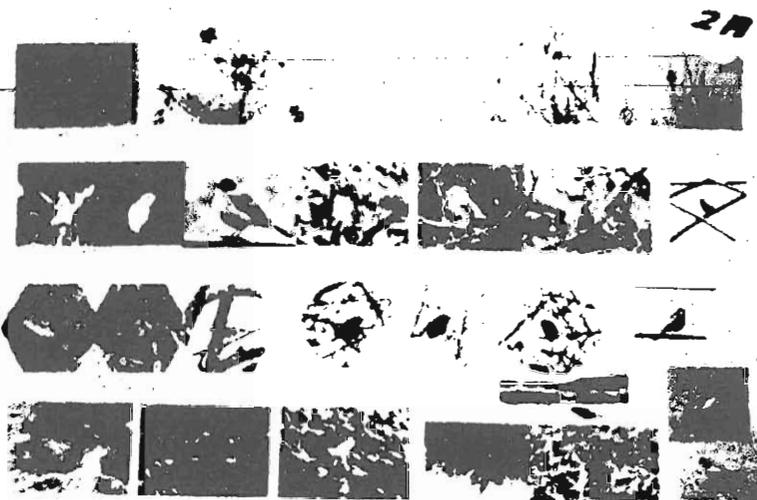
東温市の鳥

- |         |      |
|---------|------|
| アオサギ    | カササギ |
| メジロ     | オオカバ |
| コゲラ     | ウツ   |
| ウグイス    | オオカバ |
| ホシジロ    | アカハラ |
| ヒバリ     | コガモ  |
| アオジ     | エナガ  |
| シジュウカラ  |      |
| ハシブトガラス |      |

## 綾町の2月の鳥

### 綾町の鳥

カラヒリ シメ  
シロハラ ジョウビタキ  
ヒヨドリ ムクドリ  
モズ アイガモ  
アオサギ キジ  
スズメ セグロセキレイ  
ニュアイスズメ ハクセキレイ  
マガモ メジロ



### 来観者の感想ノートより（中央公民館）

- ・水面にうつる夕やけを背景に白さぎがたちつくしていた古の風景を思い出しました。ひと時の至福を過ごさせて頂きありがとうございました。
- ・4歳、2歳の子どもと一緒に見ました。
- ・野鳥の会と思ったらくらしの学習会でした。49種類、163枚かわいい小鳥たちにいやされました。
- ・たのしみでした。見ました。きれいです。わたしの鳥もてんじしたいです。  
(ベトナムからの留学生)
- ・他 29名の方々の名前が記されておりました。

宣伝用のチラシを5種類作製し、

また、東温市の広報にも掲載して頂き多くの方に観て頂きたいと呼びかけました。

鳥別・月別一覧表

2013.8.5

No.	鳥の名前	綾 町					東 温 市				
		1月	2月	3月	4月	5月	1月	2月	3月	4月	5月
	枚数	25	27	22	21	16	5	16	4	10	17
	種類	12	16	13	10	7	4	16	4	10	12
1	アオジ	◎		○				○			
2	エナガ	◎						○			
3	カルガモ	○									
4	カワラヒフ	○	○	◎							○
5	シメ	○	○	◎							
6	サギの仲間	○									
7	シロハラ	○	○	◎							
8	ジョウビタキ	◎	○	○							
9	ツグミ	◎		○	○						
10	ヒヨドリ	○	○		○	◎					
11	ムクドリ	◎	○	○	○	○			○		
12	モズ	○	○	○	◎					○	
13	アイガモ		○								
14	アオサギ		◎					○			○
15	キジ		○							◎	
16	スズメ		○		○	◎					
17	セグロセキレイ		◎								
18	ニューナイスズメ		◎								
19	ハクセキレイ		◎		○		○				○
20	マガモ		◎								
21	メジロ		◎	○				○	○		
22	アオゲラ			◎			○				○
23	コゲラ			◎				○			
24	ウグイス			◎				○			
25	ホオジロ			◎				○			
26	キジバト				◎	○					
27	イカル				◎				○		
28	アカハラ				◎			○			
29	ツバメ				◎	○					○
30	ハシブトガラス					◎		○			
31	ハシボソガラス					◎					○
32	ヒバリ						◎	○			
33	シジュウガラ						◎				
34	コガモ							◎			
35	カワセミ							◎			
36	オオタカ君							◎			
37	ウソ							◎			
38	アトリ							○		◎	
39	アカウソ							◎			
40	チュウサギ									◎	
41	キビタキ君									◎	
42	オオルリ									◎	
43	イソヒヨドリ									◎	
44	コサギ									◎	
45	アオバト									○	○
46	カルガモ										◎
47	キセキレイ										◎
48	アマサギ									◎	○
49	アオバズク										◎

	鳥の種類	写真の枚数
綾 町	58	111
東温市	45	52
全 体	49種類	163枚

◎印はその鳥の特徴などをインターネットで調べて簡単な解説をつけています。

## 鳥たちとの出逢い

今回思いがけず、私の写真を皆様に見て頂く機会をいただき、私自身が一番びっくりしています。何年前になるでしょうか。“くらしの学習会”の例会で出かけた池で、仲間のS.K.さんが、トンボを写真におさめていました。まさか、動き回る小さなトンボが撮れると思っていた私には、出来上がった写真を見せてもらって吃驚したことをはっきり覚えてます。彼女はその後、自宅でジャコウアゲハを増やし、東温市で“くらしの学習会”主催のパネル展を開催しました。いつか、私もそんな写真を撮りたい、と憧れました。

3年前の秋、松山市から綾町に引っ越した私は見るものすべてが珍しく、“くらしの学習会”の仲間に伝えたい一心で写真を撮っては送りました。最初は自宅の周りの景色、小さな野の花たちでした。春になり、庭を訪れる沢山のチョウやトンボ、鳥たちの名前が知りたくて、楠博幸先生監修のもと“蝶の来る庭”を上梓した仲間のK.K.さんに、写真を送って教えてもらいたい、と切望するようになりました。最初にモデルをつとめてくれたのは、はからずもトンボでした。初めて写真を撮ることが出来た時の喜びは忘れられません。チョウは動きは優雅ですが、じっとしている時間が短く、なかなか最初の1枚にはたどり着けません。自宅裏の木立では沢山の鳥たちが囀っていましたが、たまに撮れる写真は、はるか遠くの小さなシルエットだけでした。そんなピンボケの写真にも我慢強く付き合い、心からの感想を寄せてくれた“くらしの学習会”の仲間たちに支えられ、図々しく写真を撮り続け、送り続けました。ある仲間は、霧のかかった山の写真を、東山魁夷の絵のようだ、と評してくれました。ある仲間は、写真をネット上にアップするとまで言うてくれました。子供の頃を思い出す、と評してくれた仲間もいました。身に過ぎた褒め言葉、とは思いつつも、次の写真を撮るエネルギーになりました。昨年、秋も深まり、チョウやトンボの姿を見かけることが少なくなり、代わりに、とても人懐っこい鳥が毎日やって来るようになりました。

ある時、何が気に入ったのか、車の窓枠にとまって車の中を覗き込んでいました。私が近づいても、気付かない位熱中しています。思わずシャッターをきりました。(その頃になると、何時でも写真が撮れるように私のエプロンのポケットにはいつもコンパクトデジカメが入っているようになっていました。)パソコンで見ると、表情もはっきり写っていました!!ネットで調べると、ジョウビタキだということも判りました。嬉しくて、毎日、ジョウビタキの写真ばかり撮っていました。すると、ジョウビタキの近くにはやって来る鳥たちも現れ始め、少しずつ鳥の種類が増えていきました。そんな鳥たちの名前を調べるのは老眼の進んだ眼には厳しいものでしたが、楽しい作業でした。チョウ、トンボ、様々な生きもの、鳥たちの名前を少しずつ知るようになると、彼らが好む草花、樹の名前を知りたくなり、毎日老眼鏡と虫眼鏡の両方を使ってパソコンに向かっていきます。

今回、学習会の会員の皆様に背中を押され、奥川さんに鳥の名前を確認して頂き、この信じられない機会に至りました。全くの機械オンチの私に、ワープロの頃から、何かにつけてデジタル処理の機会を任せてくれた学習会代表のT.H.さんのおかげでパソコンを使えるようになったからこそ、実現できたことですし、拙い私の写真を心を込めて、大切にレイアウトしてくれた仲間たちの苦勞と優しさに頭が下がります。

良き友、良き仲間との出会いに、心から感謝しています。

私達のすぐそばに懸命に命を繋いでいる小さな沢山の仲間たちが居ることを見て頂けたら望外の喜びです。(K.O.)

自宅北の  
木立の樹

自宅西  
綾南川土手

自宅西  
綾南川

自宅北東の  
小径

自宅東

自宅南  
綾南川  
対岸の森

## 「重信川の自然をはぐくむ会」に参加しました

「重信川の自然をはぐくむ会」は平成15年に、重信川の自然を取り戻そうという目的で作られました。参加メンバーは大学、行政、地域の人達です。これまでに松原泉の再生、広瀬霞の整備、重信川河口のヨシ原再生と進められてきて、

今年からは東温市の開発霞（これは霞の森公園あたりです）に取りかかります。それぞれの立場の人達の意見交換や現地見学、清掃、自然観察会などが主な行事ですが、最近、私は仕事の関係でほとんど参加できずにいました。しかし今回は開発霞ということなので毎回やりくりして参加しています。もともとこの会に入った目的が開発霞のジャコウアゲハを守りたいというものでしたから。

6月のワークショップでは重信川の現状把握と整備方針検討、7月に現地見学、9月のワークショップでは整備方針の具体的な方法を検討して、保全生物についてもどんなものを残したいかなど話し合いました。もちろん私はジャコウアゲハを推薦しました。まだ多く生息しているうちに保護して、子ども達が普通に採集できる状態にして自然に興味をもつきっかけになればいいと思うからです。この後ワークショップは9月から11月まで何度か開かれますので、すべて参加して内容を報告したいと思っています。

(k・k)

### 和歌

・大根は抜かれて萎えて花咲ひて

翅しずませて蝶が蜜吸ふ

・大根は薄き紫に染む花つけて

蝶らは翅を納め鎮まる

・山路きて紋白蝶ら腹たわめ

大根畑カシラシ畑

・ツツレサセ、エンマ、ミツカド

何処にいろ

アオマツムシとコラボしている

・クマゼミや鳴く音も暑し

桜木の幹に捕ひて縦一列に

・蟬脱皮からだは白く

翅筋はみどりに澄みて朝陽昇らむ

今年の夏はカブトムシとスズムシの  
飼育をして、十五日現在

子のカブトムシ一匹と

スズムシが小分け籠五個に

五〜八つがい居ます。

(A・N)

## ルシーダでの最後の遠出

H宅所有の8人乗りワンボックスカー（エステマ・ルシーダ）を車検切れの9月一杯で手放すことになったそうである。そう言えば以前は「くらしの学習会」の活動メンバーも多く移動手段としてよく乗せてもらった。遠出の場合5人以上だとこの車で出かけていた。県内は元より（宇和町・大洲市・内子町・五十崎・久万町・砥部町中島・北条・今治市と伯方島や小島・西条市・新居浜市・四国中央市・松山市内・東温市内）県外（高知在住のMさん宅訪問・高知仁淀川町桜見物・香川イサムノグチ庭園美術館・香川東山魁夷瀬戸内美術館）へも出かけ様々な体験や文化に触れることができ楽しい時間を過ごさせてもらった。そういう訳で急遽、最後の遠出をする事になり9月17日（火）内子方面へ出かけることになり5名で9時に中央公民館を出発した。

今回の遠出スケジュールはMさんにお任せ。台風18号一過で雲一つない天氣に恵まれたこの日、まずは高速に乗り大洲ICへ、養護老人施設に住むMさんのお姉さんを尋ねた。病院併設の立派な施設で個室にはバス・トイレ・洗面台・キッチン・収納スペースもたっぷり設けられているワンルーム。92歳のお姉さんは少し耳が聞こえにくいそうだがしっかりした受け答えができ、書道や裁縫にも動しみ有意義な日々を送られているようだ。お茶とお菓子でもてなしてくれ、一階まで降り見送って下さった。どうぞお元気で!!!

この後、Mさんの謡曲つながりの旧友宅を尋ねた。内子町の中心部にあり土塀に囲まれた立派な日本家屋の旧家。屋根付きの門をくぐると旧友のhさん（メンバーにHさんがいらっしゃるので小文字にさせていただきました）が出迎えてくださった。Mさんが言う『からくり』のような仕掛けを見せて頂く事に。

\*門をくぐり扉を閉めた時の音。奥様曰く、修理をしてもこの音が止む事がないそうだが、家の中に居ても訪問者があるとこの音で分かるので用心が良いとのこと。

\*玄関の戸の鍵の締め方。木戸が組木細工のような仕組みになっていて順番通りに動かさないと締まらずこの締め方はhさんしか出来ないそうである。

大正初期に建てられたお宅は平屋建築ではあるが一般家屋の二階立て程の高さがあり、部屋の周りには広縁が巡らされていて、そのお陰か屋内はヒンヤリとした空気に包まれている。間仕切りには様々な模様の欄間がしつらえられ、昔の職人仕事の素晴らしさが至る所に見て取れる。渡り廊下の先にはお手洗いがあるのだがこの廊下にも欄間のような飾りが施されている。水洗トイレに改修された際、いい材木が使われていて勿体ないとそのまま利用したそうなのだが、全く以前の匂いはせず木の匂いが漂っている。消臭効果のある木が使われているのだろうか？hさんも不思議がっていた。お座敷で飲み物やMさん好みのお菓子を頂戴しながらMさんとhさんとの仲よし話を聞かせてもらい楽しく穏やかな時間を過ごさせて頂いた。Mさんと一緒とはいえ初対面の私たちを快く迎えて下さったhさんに感謝致します。

h宅を後にし昼食を取るため『道の駅からり』のレストランへ。平日とはいえ多くの人で賑わっている。レストランのランチにはメインプレートと野菜たっぷりのサラダビュッフェがセットになっていて新鮮で美味しい野菜をタップリ頂け大満足だった。

昼食後、五十崎にあるMさんのお宅へ。こちら木造の大きな家、玄関に入るとやはりヒンヤリとした空気にホッとす。Mさんが用事を済ませている間、出来上がったばかりのMさんの自分史『乗りこえて のり越えてここに泉あり』を頂戴したので読ませてもらいながら待つことに。読み進めて行くとクスと笑ってしまう場面が多くあり、私はまだ読み終わってはいないのだが文字が大きくとても読みやすく、この報告を提出したら楽しませてもらおう。既に読み終えたKさんは二日弱で読めたそうだ。所用を済ませたMさんと共に二階へ。明治期の着物を見せてもらい着物リメイクをしている友人がいるので私好みの三枚を頂いた。刀の鐔も皆で選び一つづつ頂いた。魔除けとして玄関に飾ったり文鎮としても良いそうだ。わたしは鶴亀の細工の物を選び早速玄関に飾っている。三時迄のんびりし、高速に乗りルシードでの最後のドライブを楽しみ帰路に就いた。

Mさんのお姉さん、hさん、Mさん宅のご近所の皆さん、案内役のMさんお世話になりありがとうございました。運転し連れて行って下さったHさんお疲れ様でした。

(A.M)

## 蝶のくる庭 (ジャコウアゲハ 7月～9月)

暑い暑い夏が終わった。

雨の降らない1カ月余りの間にジャコウアゲハの食草ウマノスズクサの葉っぱが落ち、茎も枯れてしまった。

これは天候だけのせいではない。冬を蛹で過ごした蝶が春の訪れとともに羽化し、短い命を謳歌し、やがて葉っぱの裏に産みつけた小さな卵から孵化した幼虫が旺盛な食欲でウマノスズクサを茎まで食べつくす。葉っぱをかじりだんだん茎の上まで進んで行き、その先端で3匹もの幼虫が茎を奪い合いかじっている光景もよく見かけた。4～5 cm位に成長するとごそごそと這い蛹になる場所を探す。

この間、幼虫とウマノスズクサのバランスが大切。我が家の庭に4箇所、団地の入り口の花畑に4か所、畑に1か所、ウマノスズクサを育てていた。どこもまだ十分根付かず、茎が大きく育っていないため少ない葉っぱを食べつくす。ドキドキしながら食べ物を求めてアチコチ移動させてもみた。

昨年と比べて近所の環境が変わった。ウマノスズクサを良い環境で育てていたOさんが撤退した。我が家が借り受け、沢山の野菜や花を育てていた60坪の畑を返却した。その後更地になり駐車場となった。

雨上がりの庭。涼しくなった。葉っぱが出始めた。どこかで蛹になり羽化の瞬間を待っていた蝶が飛びはじめた。ランタナやデュランタのかんざしのようにたれ下がった花の房の先で風にゆられながら羽を震わせ蜜を吸っている。何とも優雅な光景。

ウマノスズクサの柔らかい葉っぱに卵を見つけた。夕日を受けて黄色く輝いている。あ～あ～ これでまた来年も会える。自然の営みに感謝！！

雨宿りをしたり、眠っていたり、朝寝坊をしているジャコウアゲハを見てひとりではほ笑んだこともあった。また羽化したものの羽が広がらず飛べないジャコウアゲハには心が痛んだ。後翅がちぎれ、やがて短い命を終える。一喜一憂しながら今年も今しばらく蝶のくる庭を楽しもう。(S・K)



蛹から羽化したばかりのジャコウアゲハ

この姿勢で1時間あまり翅を乾かしやがて飛び立つ

## 健康診断

今年も6月の猛暑の中、予定された集会所で健康診断を受けた。大勢参加されていたがどちらを向いても年寄りばかりだった。市の準備して下さった安い価格で自分の健康度をチェック出来る最高の場と思っている。

75歳も過ぎれば、足腰が痛い、目が見えにくい、耳が聞えにくいと衰えるばかりである。それに比べ内臓の衰えは、色にも声にも出してくれないので血液検査を受けた。結果を聴きに行くと、腎臓も心臓も肝臓も数値が悪く、糖尿の入り口だと言われた。ショックで落ち込んだが、栄養指導に回りいろいろ注意された。「果物や甘い物は少しに、肉や卵は週2回位にして、魚や野菜をしっかりとりなさい」と。一人暮らしになってから、料理も手抜きで外食が多くなったからかなあと自分で反省し、真面目に指導された事を守っている。

その後血圧指導を受けている医師に診断結果の数値を見てもらおうと「kさん百歳まで生きたいのかな」と質問され「いいえあと10年でいいです」と言うと、「それなら数値なんか気にせず何でも好きな物食べたらええんよ。年相応の数値じゃがね」「そんなに気にすると余計に数値が上がるよ」となだめて下さった。

夫が糖尿から透析患者になり苦しんだのを見ているので、透析だけは受けたくない。もう3ヶ月、甘い物は食べず魚と野菜を多めにとる様な食事には注意している。

幼児から年寄り迄いろいろ指導してもらう場は多いが、聞く方が心よく受け止めてくれるには、一方的に押し付けた言い方では、効果が少ないと思う。例えば、私の場合なら「貴女80歳に近いのに、ヘルパーなしで杖も付かずよく頑張っているね、もう少し気をつけると、まだまだ長生き出来るよ」のように言われれば、成程、それなら気を付けてみようと思えると思う。

スーパーへ行っても温泉へ行っても年寄りばかり。国も福祉の財源に困って、消費税問題が取りざたされているが、私は賛成です。でも食料品特に日常必需品は除いて欲しい。食べる物も食べれなくなったら戦時中のように、餓死する老人が出て来ると思う。恵まれて年金の多い人や、財産の多い人は、困っている人を救う気持ちで税金を出してもらいたい。

又医療保険も赤字で困っているという。70歳から、一定の収入のある人は2割でよいと思う。若い人が3割出しているのだから。私も近頃病院へ行くことが多くなり、その度に1割負担を有難いと思うが、若い人に迷惑を掛けているのはすまなく思っている。

後10年は生き続けたいと思っているが、一人暮らしが何年出来るか分らない。早め早めに検査しそれなりの手当てをして、なるべく医療保険やヘルパーさんのお世話になること少なく生活したいと思っている。市の健康診断も受けてない人が多いそうだが、私は「転ばぬ先の杖」の言葉を教えとして毎年市の健康診断は受けようと思っている。(Sa.k)

## 高知合宿で学んだこと

9月5・6日と日本語教師仲間Kさんと二人で高知に出かけた。

これは、6月に松山で研修会をしたときに、高知からわざわざ来てくださった旧知の高知大学のOさんの声かけで実現したものである。Oさんのご主人のご実家を、ご両親が亡くなったあと留学生などが入れるように改装したところで、まだ彼らが入る前で泊れるので、そこで高知と愛媛の日本語教師の合宿をしないかという申し出だった。合宿というのは少々オーバーだが、いわば交流会、懇親会ができればという趣旨だと理解した。

せっかくの申し出なので、何とか実現したいと考え、メールでやり取りし、日程を決め、一緒に行く仲間を募った。私がワゴン車を運転して行けば8人までは乗れるので、最大限8名ということで募集したが、平日だからか、泊りがいけなかったのか応募はたった3名で、最終的にはそのうちの1名が急に家庭の事情で出られなくなり、結局2人で行くことになったので、ワゴン車ではなく、小さい車で行くことにした。

折しも、直前の台風の影響で大雨洪水警報が出て、国道33号線は久万高原町で土砂崩れのため一部通行止めということだったので、行くのは無理かと思われたが、前日の夕方には通行止めも解除になり、Oさんからは、素晴らしい天気だよというメールが来たので、決行した。

5日は朝9時25分、三津から伊予鉄でいよ立花まで来たKさんに乗せ、国道33号線をひたすら高知に向かって進んだ。前にOさんがメールで送ってくれた道案内は、極めて簡単なものだった。インターネットで地図を出して、言われた通りの道順を入れてみた。目印としてあげていた店はインターネットの地図では別の店だったので、少し不安だったが、今回タブレットのナビもあるので、何とかなるだろうと気楽に構えていた。

助手席にKさんに乗せ、彼女にナビゲーターを頼んで、タブレットの指示する音声に従って行った。途中、前日までの大雨で洗われたのか、素晴らしく山々の緑が瑞々しくきれいだったのが印象的だった。台風一過の晴天で、快調に高知を目指すことができた。また、ナビの適切な指図で、全く迷わず、2時間半で待ち合わせの場所に着くことが出来た。そこからは、Oさんの案内で、まず宿泊および大宴会をするお宅へ行き、荷物を置き（この時携帯電話をソファに置き忘れた）、車を置くためにそこからすぐ近くにあるOさんの本宅へ行く。

Oさんの車で、たたき道場へ。そこへもう一人の高知大のIKさんが夜の宴会には出られないからと来てくれた。串に刺した生の鰹をそれぞれ自分で、燃えあがっ

た藁で焼く。熱い！程良く焼けたたたきを切ってもらって、塩とワサビでまず食べる。おいしかった。鯉のたたきは、いつも玉ねぎ、ねぎを上に乗せてポン酢で食べているので、この食べ方は目新しく、また別のおいしさを感じた。普段食べるたたきの3倍分ぐらいを一人分として食べたので、満腹だった。

そこでIKさんと別れ、桂浜へ。龍馬像の前で記念撮影。桂浜の端の神社まで行って戻って来る。Oさんは、丁度いい時間になったということで、高知城近くの高知県国際交流協会(KIA)に連れて行ってくれた。3時までのKIA主催の日本語教室が終わったところという時間だった。しかし、その日は夏休み明けの教室の初日で、日本語講師は4人集まっていたが、学習者が一人も来なかったということで、私たちが行くのをひたすら待っていてくださった。KIAは日本語ボランティア講師養成講座(1回2時間半全4回)を行っており(講座の講師はOさんと前述のIKさん)、その修了生の受け皿がこの教室であり、夜行われる教室(初級の3つのレベルが週1回それぞれの曜日の18:30~20:00に行われている)だということだ。このほかにOさんが代表、IKさんが事務局をしている高知日本語サロンという任意団体があり、このボランティア団体もここを拠点に活動しているとのことだった。

自己紹介の後、どんな活動をしているか、授業の内容、学習者の出席簿などをみせてもらった。この教室は、クラスレッスンで、担当講師にはKIAからいくらかの謝金が出るが、かならずアシスタントとして何人かが付くことになっていて、その人たちはすべてボランティアだと言う。五月雨式の参加状況に悩みは多いが、それでも生きがいを感じて参加しているという。4人の自己紹介から、他に家業を持っている主婦、オーストラリアで教えた経験のある人、高知工科大学の大学院生、自称フリーターという若い女性、フリーターの女性は、宝くじが当たったら、外国に日本語学校を作りたいという夢を語ってくれた。オーストラリアで教えた経験のある女性は、ここではボランティア、外では独立してかなりの授業料をとり、個人でも教えているということだった。彼女の生徒募集チラシがKIAの掲示板に貼ってあった。

高知のメンバーからは、私たち愛媛の日本語グループの活動および財政的な基盤についての質問があった。ボランティア活動と言っても、財政的な基盤がないとなかなか長続きできないというのが皆の一致した意見だった。ここでの活動は、わずかでも謝金が出るということ、教室の無料使用、コピー代が要らないということで、メンバーにとっては有難いことだということだった。

ここでの交流会を終え、時間に余裕のあるメンバーと一緒に、歩いて近くの「ひろめ市場」に移動し、Oさんや、6月の研修会に松山まで来てくれて今回遅れて交流会に参加したIさんが、立ち並ぶお店の中から一番おいしいという店で買ってき

てくれたつまみ（手長エビのからあげ、キムチとするめのあえもの、たこ焼、チーズ入りナンなど）をいただきながら、Kさんと私は冷たいビールをジョッキで飲んだ。本当においしかった。ここでもまた色々な話して盛り上がった。ここに南国市からもう一人の旧知の高知大のIMさんが来るということで待っていたが、渋滞につかまったということで、遅くなりそうだったので、時間を有効に使うためKさんと近くの高知城へ行くことにした。当然ここに戻って来るつもりで出かけたので、待ち合わせ場所などの約束をしなかった。高知城は、5時半を過ぎていたので、中には入れなかったが、間近で見えることはできた。市を一望することもできた。それからひろめ市場に戻った。ところが、当然いるものと思っていたOさん、IMさんの姿が見えない。お店の人に聞いたら、ちょっと前に解散したようだとのこと。困ってしまった。実は、Oさんの連絡先は私の携帯にしか入っていなかった。携帯は、どういうわけか宿泊先のお宅のソファの上に忘れて来てしまっていたので、全く連絡方法がない。携帯を忘れて来たことはOさんも知っているはずと思ったが、彼女が忘れていて、私の携帯にメールで待ち合わせ場所を送っているかもしれない。でも、それもわからない。どうしよう。

一つの方法として、松山の友だちでOさんの携帯番号を知っていそうな人に連絡して聞くこと、もう一つは歩いてきた道をたどってK I Aに戻って事務の人に尋ねること。たとえ事務の人がいなくても、掲示板に貼ってあった例のチラシに連絡先が書いてあったので、そこに連絡すればOさんの連絡先がわかるのではないかと。但し、時間は6時を過ぎていて、開いているのかどうか心配だった。Kさんの携帯で知っていそうな人に電話をかけてみるものの、誰も出ない。そうしながらもK I Aが開いていれば何とかなると考え、記憶をたどりながらK I Aまで戻った。ところが、既にシャッターが閉まっていて、万事休す。頼みの綱が完全に切れてしまった。頭は真っ白に。どうしよう……。5分ほどKさんとそこに佇んでいたら、何と、閉まっていたシャッターがおもむろに開き始めた。一筋の光が……。しかも出て来たのは、K I Aの事務の方で、6時半から夜の教室があるのでその時間に合わせて開けに来たとのこと。早速2階の事務室にうかがい、Oさんに電話をかけてもらう。連絡が無事取れた。K I Aの前まで迎えに来てくれるとの事。やはり私の携帯にメールで待ち合わせ場所を連絡していたとか。私が携帯を忘れて来たことは完全に忘れていたとの事。辛うじてことなきを得たが、もし、K I Aのシャッターが開かなかつたらと思うとぞっとした。携帯電話に頼り過ぎている今の生活に警鐘を鳴らしてくれた気がした。携帯がなければ起こり得ない事態だと思う。

そんなこんなで、Oさんの車に無事乗って、後ろにIMさんの車を従えて、宿泊場所に直行。大宴会が始まった。「ひろめ市場」でお腹ができていたので、若干のつ

まみだけでビール、ワインをかなり飲んだ。話題は尽きず、楽しかった。IMさんは酒豪でまったく変わらない。Oさんは普段ビールは飲むものの、ワインはあまり飲まないそうだが、持っていったワインがおいしいと言って、かなり飲んだ。私もここに泊まるということで気を許して、たくさん飲んだと思う。ある時点から記憶が飛んでいて、夜中に気が付いた時には、洋服のまま布団で寝ていた。それからパジャマに着替えて、メールの確認をしたりして、再び寝た。IMさんは次の日、仕事があるからと、朝6時半ごろ帰っていった。その時には、ちゃんと起きて送り出すことができた。忙しい中を貴重な時間を割いて来てくれたIMさんに心から感謝したい気持だった。

ところが、ワインを飲みすぎたOさんが二日酔いで、次の朝も大変な状態だった。本当は牧野植物園へOさんの車で行く予定だったが、10時過ぎてもとても無理な状態だったので、Oさんにそのまま寝ているようにいい、私の運転でナビを頼りにKさんと二人で行くことにした。

ナビのおかげで全く迷わず行けた。牧野植物園は何年か前にくらしの学習会で行ったことがあるが、またその時から変わっているように思った。花の咲いている季節ならきつときれいだろうと思われる薔薇のアーチ、カンナの小道、広い園内を歩いた。お昼は中のレストランで済ませた。おいしかった。牧野博士が使っていた「の」を巻いたマーク 巻き「の」=牧野 はユーモアに富んでいて面白かった。グッズも色々売っていた。

2時ごろ出て、初日に鯉のたたきを食べた道場の隣の「かつお船」でお土産を買い、Oさんの寝ているお宅に戻った。ナビの適切な指示に従い、無事戻ることが出来た。Oさんは二日酔いから少し覚めたとのこと。よかった。3人でアイスクリームをいただき、3時には荷物を積んで、帰路に着いた。6時には我が家に無事着くことができた。

Oさんのお陰で、本当に充実した時間を送ることができた。今回の合宿でいくつかのことが身をもって分かった。携帯電話に頼り過ぎている現状を改め、まさかの場合も想定し、二重にも三重にも連絡先、待ち合わせ場所、約束などを確実にしておくこと（例えば連絡先を手帳にも書いておいてあれば、Kさんにも教えてあれば大丈夫だったはず）、ナビは極めて便利で有効なこと（但し、これも頼り過ぎないこと、地図は事前に頭に入れておくこと）、気を許しても、お酒は飲み過ぎないこと。自戒を込めて！

(T. H)

## 被災松のバイオリン

陸前高田のかの一本松は、復興へのシンボルとして不滅のものとなった。また同じ被災材より制作されたバイオリンが「命をつなぐ木魂の会」によって、“千の音色でつなぐ絆”として、世界をリレーしている。幸い京都でその音色を耳にした。7月美しい月の宵であった。

### 被災せる材より作るバイオリン音色はいかにと肅々待てり

聞いていた通り真に柔らかくやさしい音色で、全聴衆も、遠く被災地の人々の心にも、2万余の犠牲者の魂をも包み癒し、やさしく満たして余りある美しさであった。

京都芸大出のバイオリニスト選曲によるプログラムであろうと思われるが、先づはベートーベン。魂の苦闘の変遷と重なり合って、重厚な響きに、ホール全体が今一度3月11日を追体験し得たのでは・・・と思う。次いで軽快にモーツァルト、そしてバイオリン曲として必ずや演奏される「愛の喜び」に、私はもう夢中。東北の民謡も弾いて下さった。最後はかの「花は咲く」を会場の多くの人がステージ上で大合唱した。聞く度にその歌詞に心の涙する永遠の曲であると思う。

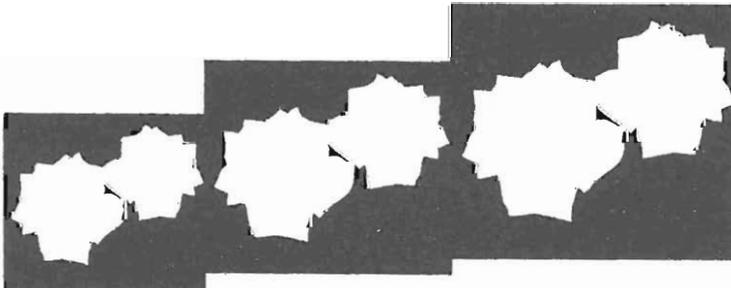
同バイオリンの二挺が日本を、もう一挺が世界を巡り、忘れてはならない3・11が聴く人の身近に迫って来るのである。このバイオリン背面には、青空に立つ一本松が描かれていた。触ってもいいとのことで、指先で一瞬大津波を感じてみた。被災の流木は見事の甞っていた。

### 一本松よ津波に倒れし樹の生ずるバイオリンの音世界をリレーす

7月末で約170名のバイオリニストが、世界の各地で演奏し、引き継いでいっている。この日バイオリニストは、恐らくは彼一生のただ一回の実にいい仕事を成したのである。この私も一生一度の、身も心も震えた忘れられぬコンサートとなった。

今手元に、津波に濡れた着物地で作った小袋がひとつ。同地の女性達の復興への仕事である。

(M.D)



## 雑 感

連日の猛暑日からも解放され、朝夕は涼しさを感じる事が出来るようになりました。庭のダルマハギが満開になり、コムラサキシキブの実も鮮やかに色付いています。 蝉しぐれもアブラゼミやクマゼミからツクツクボウシ、ヒグラシに変わり、日暮れを待ちかねてコオロギが歌い始め、夜が更け気温が下がると、マツムシも加わります。

九月に入ると、畦道に彼岸花が咲き始め、日毎に数を増やしています。今年も、お彼岸の頃には鮮やかな緋色の帯が、黄金色の稲穂の波を縁どることでしょう。

えびの高原ではススキの穂が出始めたそうです。えびの高原の名前の由来は、赤みを帯びたススキの穂が風になびく様子に因るものだということです。硫黄山の噴気に交じる亜硫酸ガスによってススキの穂がえび茶色になるのだそうですが、このところ、噴気活動が活発でない為、今年のススキはえび茶色にはなっていないといひます。強い酸性による青緑色の火口湖面の周りを彩るえび茶色のススキの穂の波打つ様は得も言われぬ美しさです。そんな景色を見ることが出来ないのは少し寂しい気持ちになりますが、2年前の新燃岳や最近の桜島の様な爆発的噴火を経験すると、景観より安全、と思わざるを得ません。

豊かな自然は、私達に様々な恵みを与えてくれる一方、時に牙をむき甚大な被害をも与えます。

それにしても異常な夏でした。

連日のように、日本の何処かが大きな災害に見舞われました。記録的高温、記録的大雨、少雨、竜巻、地震、異常な海水温の高さが毎日のように伝えられました。観測史上初めてとか、最高、最多、と言う言葉が飛び交い、気象庁が頻繁に緊急会見を開きました。気象庁は8月30日から、その地区において数十年に一度の被害に見舞われる危険が高まった場合“特別警報”を出し、“直ちに命を守る行動をとる”ように呼びかけることになりました。

運用から20日足らず、台風18号は各地に甚大な爪痕を残し日本列島を縦断しました。京都、滋賀、福井には初めての特別警報が出されましたが、実際に行動に移した人は意外に少なかったと言ひます。問い合わせの電話、メールが殺到し、繋がりにくかったという声もありました。無残な映像に言葉を失いますが、人的被害が少なかったことは不幸中の幸いでした。

特別警報の出し方、受け止め方について、様々に検証がなされています。受け取る私達は、避難準備情報、避難勧告が出された段階で、心の準備をしておかなくて

は、と思ったことでした。特別警報が出た後、自力ではどうにもならない場合は119に電話するように、とのことですが、多分繋がりにくいでしょう。

専門家は、このところの極端な気象状況の原因について、二重高気圧、都市型構造によるヒートアイランド現象、蛇行する黒潮など様々に解説しています。結局、私達人間が便利さ、快適さを追求し続けた結果のように思えてなりません。

昨年6月だったでしょうか。京都大学・原子炉実験所の小出裕章氏のお話を聞く機会がありました。

《原発は炉の中で発生する熱量の1/3しか電力に変えることはできず、2/3を海に捨てて海を温めている。非常に非効率的な発電装置である。“海温め装置”だと言ってもよい。その為、原発によって海水温度は著しく上昇する。原発は発電過程ではCO<sub>2</sub>を排出しないかもしれないが全行程を考えると、とてつもなく多くのCO<sub>2</sub>を排出している。そればかりか、処理不能と言わざるを得ない核廃棄物を産み出し続ける。1966年の東海1号炉の運転以来、産み出し続けたセシウム-137累積量は、広島原発の100万発分を超えてしまった。福島でおきた悲劇的な事故を収束する手立では現時点では限りなく不可能に近い。除染は移染と心得るべきであるが、子供たちの環境を少しでも良いものにするために、限定的な除染を繰り返し行うことは止むを得ない。》

そんなお話の中で、《人間が生きていくためにエネルギーは不可欠で、足りないと平均寿命が著しく低下するが、ある程度以上は、平均寿命を延ばすわけではなく、現代はエネルギー浪費の時代である。特に、1990年代以降の日本は生きる為ではなく、贅沢の為に使っている。その結果、世の中は豊かになるどころか生命環境を破壊している。》この言葉が頭から離れませんでした。

あれから1年余。私なりに、どうすればエネルギー消費を少しでも減らすことが出来るのか、考え続けました。

雨が降ってもぬかるみに足をとられることのない舗装された道路。

車の為、縦横に張り巡らされた自動車道。

空調設備の整った屋内空間と高層ビル群。

世界中から陸路、海路、空路を駆使して運ばれる食材と運送の為の包装資材。

季節に関係なく、安価に安定的に食料を生産するために管理された、養殖、水耕栽培。

通信、測位、地球観測のため多数打ち上げられ、宇宙のゴミとなる人工衛星。

世界各地を日常的に結ぶ移動手段と廉価競争。

多機能になりチャンネル数の増えたテレビとより高くなる電波塔。

CO<sub>2</sub>を排出しないクリーンライフ、と国を挙げて推進したオール電化住宅。等々。生活のあらゆる場面で日常的に大量のエネルギーが使われています。

地球温暖化を問題視する一方、最近の気温上昇で氷が解けた北極海での航路に商機を見出す人達までいます。

これらが、梅棹忠夫氏のいうところの、“知的生命体である人間は破滅への道を歩む”ということなのでしょう。人間が栄華を享受する陰で、姿を消していく生き物たちが増え続けています。人間が絶滅危惧種となる日も遠くない将来やって来るのかもしれない。

1990年代の日本人一人一日当たりのエネルギー消費量はおよそ10万Kcalですが、2000年代は12万Kcal以上に増えています。せめて増えた分を減らせないものでしょうか。どの程度エネルギー消費を減少させることが出来るのか、科学的な拠り所は皆無ですが、旬の食材、地元の食材を近くの商店街で手に入れることが、栄養的にも、排気ガス削減にも、地元の繋がりにも有効であると思えてなりません。

歩くことは健康に良い影響があるでしょう。道路に歩行者が増えれば、犯罪も減少するかもしれません。そして何より、住民のコミュニケーションが濃密であるということは、災害に強い街づくりに繋がると思うのです。

頑張れば歩ける範囲で生活が完結できる、そんな街創りこそが人間的な生活だとの想いが歳をとるに従って年々強くなります。

東京電力福島第一原発で、汚染水の海への流出が問題になっている中、9月8日、2020年夏季オリンピックが東京で開催されることが決まり、連日、そのニュースで沸き立っています。アルゼンチンで行われた、IOC総会での最終プレゼンテーションに先立って行われた記者会見では汚染水問題について質問されたIOC会長の竹田氏が“東京は福島から遠いので安全”と発言し響きを買いました。しかし、最終プレゼンテーションで安倍総理は、“汚染水は完全にコントロールされている”と発言しました。信じられません。喜びに沸いている人達に水を差すつもりはありません。しかし、オリンピックの年に生まれ、結婚したのもオリンピックの年、というオリンピックに何故か因縁のある私は、2020年、私が6度目の干支を迎える記念すべきオリンピックは、是非、トルコのイスタンブールで開催して欲しいと思っていました。私が子供の頃、アラビアンナイトなどの物語の世界でイスラム社会はとても身

近でした。それが長ずるに従って、とても遠い国になってしまっています。世界中から多くの人達が出かけ、そこに住む人々と直接触れ合うことは何より、お互いの理解につながると信じます。イスラム諸国と西欧諸国、お互いをとても遠くに感じている今こそ、イスラム圏内での初めてのオリンピック開催を切望していました。

あの大地震から2年半。まだまだ復興には程遠いのが現状です。しかし、一国のリーダーが世界に向けて完全なる復興を約束したのです。7年後、現在、未だに仮設住宅で不自由な思いをされている方、帰りたくても帰る事の出来ない帰宅困難地区に住んでいた方、大切な方を失い心に傷を抱えている方、その方達が心からオリンピックを楽しめる状態になってほしいと願わずにはいられません。

選手村など、予定されている施設の殆どが臨海の埋め立て地区ですが、近い将来、おきるとされている東南海地震の液状化や津波を考慮したうえでの計画なのでしょうか。心配です。

1964年の東京オリンピックに向けて突貫工事で整備された道路、橋脚、上下水道は老朽化が進んでいます。2027年、品川一名古屋間で開業するリニア中央新幹線の前倒しを望む声も少なくないようですが、先ずは古くなったインフラの修復を完全なものにして欲しいと思います。菅官房長官は“部分開業した箇所だけでも海外からのお客様に試乗して頂きたい”、と発言しましたが、急がず、安全重視で工事を進めて欲しいものです。それにしても、これ以上、地下を、山を、穴だらけにしないで欲しいとは思いません。

東日本大震災からの復興が遅れている原因の一つが、人材、資材の不足だとも言われています。オリンピックや新幹線の為の工事にまで手を回す余裕はあるのでしょうか。疑問です。

汚染水問題に関しては事故後早い段階で、民主党の馬淵首相補佐官（当時）が遮水壁案を提出し発表寸前まで行きながら、債務超過になると、株主総会を乗り切れないという東電の意向で没になっていたということです。現在民主党代表で当時の経産相の海江田氏も東電の意向を認めたというのですから、野田元総理の収束宣言同様噴飯ものです。現在検討されている凍土方式の遮水壁は長期間の運用実績が無い上、凍結管に損傷がおきた場合の影響の大きさを心配する声もあります。何故、凍土でなくてはいけないのでしょうか。

福島第一原発の廃炉には、順調にいったとしても40年もの歳月が必要とされています。しかし、多種類の瓦礫が複雑に重なり合っている上、高い放射線量に阻まれ、

融け落ちた核燃料や冷却プール内の使用済み燃料集合体の取り出しは儘ならない状態のまま、時が流れています。

今なお、強い余震が頻発していますが、これ以上強い余震が起きないことを祈るばかりです。

そんな中、次々に再稼働が申請されています。

原子力規制委員会の有識者会合は大飯原発の敷地内の破砕帯について活断層ではないと結論付けました。1年間に亘って調査した結果ですから、活断層ではないのでしょう。稼働させるからには、想定外のことが起きても尚、安全でなければならぬのは当然のことです。しかし、規制委員会は“稼働させるための”審査をする集団なのでしょう。鳴り物入りで新しい組織になった“原子力規制委員会”です。原発の存在自体が許されるものなのか否かを審議する存在であってほしいと思います。そして、現在は除外されていますが、プラントメーカーへの製造物責任法を適用して欲しいと思います。

自民党が長きに亘って政権与党であった時、国策として推進してきた原発。たまたま、政権交代で民主党が与党になった時に事故は起きました。しかし、幸か不幸か自民党は与党に再び咲きました。自分たちが推し進めてきた原発です。最後まで責任をもって終息させてほしいと思います。リーダーシップは国がとり、費用は電力会社とプラントメーカーで負担すべきです。

9月11日は東日本大震災から2年半であると同時に、アメリカの同時多発テロから12年目の日でした。現在、アメリカは化学兵器を使用したシリアへの対応について苦慮しています。最初は軍事介入を示唆していましたが、同盟国のイギリス議会の反対によりイギリスの同調が得られませんでした。アメリカの国民もシリアへの軍事介入には反対しています。アフガニスタン、イラクへの軍事介入での厭戦感の表れだと思えます。ロシアはシリアの化学兵器を国際監視下に置くことで平和裏に解決すべき、と提案し、シリアもその案を受け入れました。どのような手順で国際監視下に置くことが出来るのかは不透明です。それでも、元CIA職員の処遇に於いて確執のある両国の外相が時間をかけて話し合ったことは意味のあることだと思います。

日本と中国、韓国は懸案を抱えながら話し合いすらできない状態にあるのですから。大きな問題を抱えている時こそ、じっくりと時間をかけて話し合うべきです。それが成熟した国際関係と言えるでしょう。

そんな状況に関係があるのかなのか、安倍内閣は憲法9条改憲に向けて、憲法の改正手続きについて規定する96条を変えようと模索し、集団的自衛権に関して、安倍総理と近い考えを持つとされる小松駐仏大使を内閣法制局長官に任命し集団的自衛権を憲法解釈で行使できるようにしようとしていると言われています。

いったい何がしたいのでしょうか。

世界中で紛争、内戦がおきている今こそ、日本は憲法9条を誇り、世界から戦争を無くすための努力をすべきです。唯一の被爆国である日本はその責任と権利があります。その日本が4月、スイス・ジュネーブであった核不拡散条約(NPT)再検討会議の準備委員会で核兵器の非人道性を訴える共同声明に賛同しなかったことに関し、広島、長崎、両県とも、原爆の日に出された平和宣言のなかで批判しました。当然です。

式典に参加した映画監督オリバーストーン氏は、“日本はそろそろアメリカの核の傘に守られていなければならぬとの考えから解放されるべきだ”と述べています。日本が核武装すべき、という意味ではないことは明白です。自力で、自国民も、相手国民も傷つけることなく、平和裏に諸問題を解決する方法を一人一人が考えるべき時が来ています。

暑かった今年の夏、私は生まれて初めてヘチマを食べました。若いヘチマをご近所から頂き、教えられたとおり、皮をこそげ取り、5~6cmの拍子切りにし、透明感が出るまで塩茹でし、水切りして冷やし、辛子酢味噌で頂きました。ツルンとした食感が夏向きでとても美味しかったです。みそ汁も試しましたが、なかなかの美味しさでした。

此方ではゴーヤーとニガゴリ(ニガウリ)は別物だと言います。ゴーヤーは沖縄からのもので、ニガゴリは元々宮崎に有る野菜だと。苦味が違うようです。初めて知りました。

裏の木立の木々の根もとではヤブミョウガやセッコクが白い花を付けています。小さな花ですが薄暗がりの中でひととき存在感があります。ヒメアカネ、ミヤマアカネ、イトトンボ、イシガケチョウとの出逢いに恵まれた夏でした。

今日は仲秋。旧暦の8月15日です。3年連続の満月ですが、次に仲秋の満月が見られるのは8年後だと言います。少し曇ってきましたが、雲の切れ目から顔を出した満月は眩しい位でした。昨日の小望月もとても美しく冴えわたっていました。

(k.0)

9月19日 木曜日

志津川地区区画整理住民の自治組織立ち上げを支援

〔東温市〕19日・(定例)松末博年、西山徹、相原真知子、酒井克雄(以上無所属)近藤千枝美(公明)の5氏が一般質問した。

松末氏は、志津川地区土地区画整理事業に関連し、地域コミュニティ形成の在り方を質問。理事者は「自治組織の方向性は住民が決定すべきだ」とした上で、新たな自治組織をつくる場合は新旧住民の融和を円滑に進める必要があるため、2014年度から市、事業者、新旧住民による勉強会開催などの支援

をするとした。

相原氏は、市庁舎の窓口と職員の執務スペース改善を求めた。理事者は「他市町を参考に協議し、意見集約をした。今後、窓口改革

の大枠を定め、ワークスペースグループで具体的な整備方針を検討したい」と説明した。

近藤氏は、幼児や児童が病気やアレルギーで幼稚園や学校などか

ら緊急搬送される際、救急隊が必要とする個人情報などをまとめた「子ども安心カード」を作り、活用してはどうかと提案。理事者は「園や学校で作成している

アレルギーの有無やかかりつけ医を記した個人情報カードを緊急時に有効活用し、消防隊に渡すことも考えた」と述べた。

9月20日 金曜日

市議会

国体仮設施設建設税金多額投入極力無駄省く

市長

〔東温市〕18日・(定例)渡部伸二、永井雅敏、大西勉、山内孝二、丹生谷美雄(以上無所属)森真一(共産)の6氏が一般質問。

渡部氏は、2017年愛媛国体のソフトボール競技会場を重信川かすみの森公園多目的広場(上村)に設ける計画に関し、国体後に撤去する仮設施設建設に多額の税金を投じる是非を問った。高須賀功市長は「無駄を極力省き、最小限で最

大の効果を挙げる工夫で対応する」と答えた。

森氏は学校給食での地産地消をたたじた。理事者は、12年度の市内産食材使用率は23.4%と説明。地元産で旬の野菜を使う献立を積極的に取り入れ、計画的な作付けを生産者に依頼、地場産農産物の供給拡大を図り、45品目の野菜を使用しているとした。

丹生谷氏は、県原発広域避難計画に伴う西予市と内子町からの避難者受け入れ態勢を質問した。高須賀市長は

21の屋内施設と20の屋外施設を選定したとし、地震や津波との複合災害などで市民の避難が必要な場合は「県からの広域避難受け入れ要請時に人数制限などの調整をする」と述べた。両市町から避難行動計画案の説明を受け、協議を開始したことも明らかにした。

## 編集後記

今回は「鳥のパネル展の特集」としたかった。白黒印刷になるし、紙面の都合もあるし、無理な事がわかった。鳥のパネル展開催に向けて準備を始めてから、この会報で皆さんに報告するまで約半年を要した。手始めに3月末には、会員3名が綾町を訪れ、その空気をも感じてきた。

たくさんの写真と対峙し、自然の中に溶け込み共存共栄している鳥、その可愛らしさ、羽根の色彩の美しさに魅了された。鳥の姿に気がついて、動作が俊敏ですぐ目の前から遠ざかって行く鳥を、Oさんはデジカメでよくとらえられたものだと感心しながらパネル作りを楽しんだ。

川内公民館でのこと。東谷小学校の生徒が校歌に出ている「カワセミ」を口ずさみながら探している光景は、パネル展をしてよかったと思える瞬間だった。

(S.K)

以下パネル展の「はじめに」の挨拶文より一部抜粋します

今回私たちの会員仲間の一人(宮崎県綾町在住)が毎月送ってくれる綾町の身近な鳥たちの写真に触発されて、東温市の身近な鳥たちのことを知りたくなりました。

そこで、東温市在住の専門家奥川健一氏のお力添えを得、写真パネル展を開催することになりました。

それぞれの会員の思いが一杯詰まったパネル展です。見て、微笑んで、温かい気持ちを感じていただけたら嬉しく思います。

## 10月例会のお知らせ

10月22日(火) 10:00～ 林宅

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com